

られる、章景も私も夢中に歩いたが、殊に章景の顔色が變つてゐたのを今でも憶えてゐる。そして、松竹劇場へ着いた時、『こんなん叶はん』といひながら手拭で身體中の汗を拭いてゐた姿は目の先にちらつくやうである。また章景を好きなる人はあつたとの事であるが、章景の方は何時も逃げ腰であつたさうである。出征の直前に暇を貰つて歸宅した時であつたと思ふ、章景の母堂の依頼で、ほんとうに好きな人がないのか

## 生々しい思出より

今は國難に殉じた無二の友中村章景氏の陰れる、偉大なバーソナリティーを讀者諸兄に知つて頂きたく、私は此處に一言させて戴きます。氏の子供時代は超越した悪童で有つたさうで

どうかを私が問ふた時、「その方面は一向不調法でんのでおまへんねん」と頭を下げてゐた。今でも私はこの返事を非常に物足りなく、且残念に思つてゐる。それは章景のやうなあんな可愛らしい人の戀愛を知りたかつたのである——他人の劣情を知りたがるといふやうな通俗的な氣持でなく、そこにはきつと私達のお手本とすべき純情さが存在してゐたことであらうと思つて。

## 大谷 廣太郎

す。勿論私が知つてからも「三ッ兒の魂百までも」と云ふが如く、屢々童的な素材なゼスチュアを、取つて私を驚嘆させましたが、しかし私が氏に興味からでない友情を感じた時には、既

に點染の無い苦勞人に生長して居りました。

私達の友情が正しい、純粹な心情を目ざして行く内に、段々氏のパーソナリティーを明確に知る事が出来ました。

氏は非歌舞伎社會的な、色と雰圍氣とを持つた大器晩成型の藝術家の卵でした。

又氏は苦勞人で有る長所として汚なるものをも、受入れるだけの大きさが有つた、なれど内面は大の潔癖屋でした。

かうしたパーソナリティーの所有者である處の氏は信仰の強い人間で有り、且モラリストで有りました。

氏は堅い半面、非常にロマンチックな分子を豊富に有して居りました。氏は常に、シューベルトの音楽を愛好して居る様子でした。『餘り西洋音楽には通じて居らなかつたのでしたが、

やはりロマンチックな人にはロマンチストの思想を、無知識のうちにも理解する力が有つたらしい』のを見ても、氏にロマンチックな分子が存して居るのが御解りに成ると思ふ。

又氏は自然を愛し欲して居りました。

「人間にも自然は絶対缺いではならんもんですよ」と哲人めいて、肩をピリツとさせた時もあるが、氏は外面にはこの様なデリケートな感覺は少しも表れて居ませんでした。

好人物で有る閃きは、誰にも感じられたでせうが、たゞほんのそれだけです。そして他には、おまけに、可笑な變挺な人と言ふ印象を投げかけて居ました。

可笑な變挺な人と言はれる印象を投げかけると云ふのは、どういふ譯なのでせうか、私も不思議に思ひ咎めました、友人が二重人格的行爲

をなすのを、私は忍び難かつたから。しかしそれは世間擦れのした卑俗な行爲ではなかつた事は認めたのですが、何故なのでせうか、私には疑問でした。

何度となく友のかうした行爲を目撃して、始めて疑問が解けた。氏の心の底を流れて居る東洋人種獨特な「沈黙を貴ぶ」といつた思想が、少からず基因しても居つたのでせうが、もつと他に原因は有りました。自分自身の姿で生活出来ぬ悲愴な境遇に有つた事でした。

氏は灰色な内に生活しなければならなかつた、冷い北風に氏は何時も何時も、吹き曝されて居た。

氏はこの惨い行爲に對しても、苦勞人である賜物として受流せる、強靱な精神を有して居た。けれど氏も若者である、たまには反抗心が、む

らくと込上げて來るのを、押へる事の出来ぬ時であらう。そんな時でも精神的に自分に勝つた、そして氏は正反對な行爲に出た。

此處が氏を知らぬ人々から見たらば、可笑な變挺な所以で有る。

中村章景氏は東京修業時代には、この様に苦勞をしたので有ります。

氏は技術方面にも大層苦勞も研究もして居られたが、精神的方面程ではなかつた。でも私は中村章景氏を現代の深い廣さのある藝術家に爲すには、尊い體驗で有ると、其當時私は獨り喜んで居りました。私は同時に氏の全體の良さが藝術面に出た時は、完成するのだと考へて居つたのでしたが、かうした事に成るとは、私は口惜しい、泣けて泣けて仕方がありません……。

イヤ氏は完全に完成されて居る。藝術を通さず  
に赤裸々な日本人として美事に出来上つた。

氏が軍服を身に附けてから私にかう言はれた、  
「國難に一命を捧げるのは日本人として自然の  
ことです。無意識裡に日本人は大和魂が燃える  
もんです。」と。こんな健氣な感情と理論を持つ  
た氏は立派なものだ。私は口惜がつたり泣いた  
りしてはならぬ。友は日本人として此様に完成  
し、忠を全うしたので有る。私は泣いてはなら  
ぬ。

かほどに完成された日本人の最後は定めし雄  
々しいであらう、山櫻が一陣の風に散り行く如  
く。

友よ安らげく眠れ、君は二十三年間と云ふ短

い人生の内に百年二百年懸つても、凡人には獲  
得出来ぬものを得たのだぞ！

肉體は失せても、君の精神は萬古に生き抜く  
であらう！

友よ安堵して靜に眠れ！

讀者諸兄私と共に氏の冥福を御祈り下さい。

私は先程中村章景氏の陰れたるパーソナリテ  
ーを知つて戴きたいと申しましたが、筆が亂れ  
て到底友を語り盡せませんでした。

でも萬分の一なりとも氏の陰れたるパーソナ  
リティーを、諸兄に知つて戴ければと心に念じ攔  
筆致します。

二六〇〇、一、二二二 東京にて